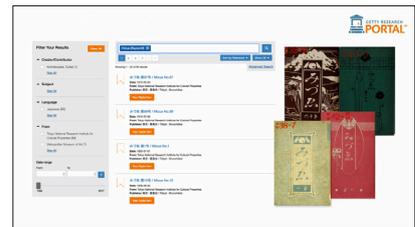


文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究(シ01)

目的 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究の成果・データをより国際的標準に見合うかたちに整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。併せて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

成果 1. 調査研究の成果の公開と、研究情報の国際発信

- 平成28年度に引き続き、当研究所刊行の論文等を Japanese Institutional Repositories Online (JAIRO) を通じて公開する作業を進め、『美術研究』(879件)、『芸能の科学』(163件)、『無形文化遺産研究報告』(78件)、『保存科学』(745件)、『音盤目録』(7件)、『日本美術年鑑』(72件) を今年度新たに追加した結果、合計6タイトル3,454件の論文・刊行物のフルテキストを掲載・公開した。
- Getty研究所のGetty・リサーチポータルに当研究所所蔵の貴重書で、デジタルコンテンツ化した『みづゑ』1～90号(春鳥会、1901～1912年)及び『第1回特別展覧会目録、第2回特別展覧会目録〔合本〕』(東京帝室博物館、1901年)が掲載され、今後も提供データを増やしていくための調整と作業を進めた。
- 1930(昭和5)年から2013(平成25)年までの展覧会カタログ掲載記事・論文のデータ約5万件を「東京文化財研究所美術文献目録」として、世界最大の共同書誌目録データベースであるOCLCのセントラル・インデックスに公開した。



Getty・リサーチポータルでのデジタルコンテンツ公開

2. 国内外の関連機関との協働研究・協議

- 京都府所蔵資料の情報共有について協議し、昭和初期の資料のデジタル化を行った。
- 国際図書館連盟(IFLA) ヴロツワフ(ポーランド)世界大会に参加し、研究協議を行った(2017(平成29)年8月19～25日)。
- 日本資料専門家欧州協会(EAJRS) オスロ大会に参加し、ブース発表及び研究協議を行った。(2017(平成29)年9月12～18日)。
- Getty研究所との研究交流及び国際協働事業を推進し、2017(平成29)年12月6日に「キャスリーン・サロモン氏(Getty研究所副所長)講演会—日本美術資料の国際情報発信に向けて」を開催し、今後の協働事業について協議した。
- イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及び同研究に関する英語文献・記事情報の採録に関する運用面での協議を行い、講演を行った(2018(平成30)年2月13～17日)。

報告・江村知子「研究会「キャスリーン・サロモン氏(Getty研究所副所長)講演会—日本美術資料の国際情報発信に向けて」開催報告」『アート・ドキュメンテーション通信』116 pp.9-11 18.1

発表・塩谷純「崇敬と好奇、そして禁忌のまなざし—明治天皇の視覚表現をめぐって」イギリス・セインズベリー日本藝術研究所 18.2.15

セインズベリー日本藝術研究所での講演会



研究組織 ○江村知子、橘川英規、安永拓世、津田徹英、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人(保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、永崎研宣(客員研究員)